

令和〇年（少）第〇号 大麻取締法違反保護事件

## 付添人意見書

令和〇年〇月〇日

福岡家庭裁判所 御中

少年 〇〇 〇 〇

付添人弁護士 福岡 九州男

少年に対する頭書事件について、付添人の意見は以下のとおりである。

### 意 見 の 趣 旨

少年については、保護観察処分とするのが相当である。

### 意 見 の 理 由

#### 第 1 非行事実について

本件非行は、大麻の密売の手伝いを行うために、大麻を所持し、共犯者らと共謀のうえ、大麻を譲り渡した行為である。本件非行は、密売の手助けをしているため、悪質な非行ではあるものの、少年自身が利益を得ることもなく、「密売の共犯」・「運び屋」というよりも、今回の1件のみ共犯者の手足として大麻を運んだに過ぎない非行である。

したがって、非行事実からは少年の非行傾向が進んでいるということとはできない。

#### 第 2 要保護性について

## 1 少年の長所と短所

少年の長所は、継続する力である。

少年は、現在の職場で3年以上も長く働いている。一緒に働き始めた周囲の友人が次々と辞め、現在でも働いているのは少年だけとなっている。

このように、少年は、物事を継続する力があり、今後、大麻をやめるためには、この力が大切となる。

少年は、この継続する力を自覚し、どのように大麻をやめていくのかをよく考えている。

他方で、少年は人に流されるところや、「ビビリ」な面もある。今回大麻の使用を始めてしまったのも、このように、人に流され、断ることのできない「ビビリ」な性格が影響している。

## 2 少年の考えた大麻との関係を断つ方法と付添人の考え

少年は、今回鑑別所での生活を通じて以下のとおり考えた。

### ① 大麻の使用を続けるとどうなるか

少年は、鑑別所で薬物使用者の本を読んだ。

そこで、大麻を使用していた人のエピソードやシンナーを使用していた人のエピソードを読み、「今までは大麻はたばこよりも害がないと思っていた」けれども、本を読んで「大麻は脳に影響がある」こと、「被害妄想をしてしまう」ことや「覚せい剤の入り口」になることを知った。

このように、少年は、大麻の影響について、自分から本を読むことで知識を身につけた。そして、その知識をもとに、大麻の使用をやめなければいけないと考えるようになった。

付添人としても、何の根拠もなく「もう絶対やめます」と話すので

はなく、具体的な影響を知ることやめると考えた少年の気持ちは、とても強いものであると思慮する。

## ② 大麻密売の手助けをするとどうなるか

付添人から、少年に対し、実際に付添人が弁護人として担当した覚せい剤や大麻の密売についての成人事件の話を紹介した。

付添人は、少年に対し、大麻の密売が、裏で反社会的勢力の密売や外国からの密輸ともつながっているから、最初は末端で手伝ったに過ぎなくても、名前が知れ渡り、いつか知らないうちに大麻の密売に深くかかわるようになっていたり、覚せい剤の密売や密輸にもかかわり、抜け出せなくなることにつながることを伝えた。

少年としても、軽い気持ちで大麻の受け渡しを手伝ったので、今後は関係を断つ、というだけであったが、密売の怖さを具体的に知ることや、より一層、密売人との関係を断つ気持ちを強く持つようになった。

少年が、今回の捜査で、密売人や購入者について全て供述したのも（令和〇年〇月〇日付供述調書）、その強い気持ちの表れである。

## ③ 大麻との関係を断つにはどうするのか

少年は、継続する力をもとに、i 仕事を続ける、ii 趣味を見つけて仕事のないときも暇をつくらない、iii 貯蓄をして無駄な出費をしない、という方法を考えている。

具体的に上記のような方法となったのは、もともと少年が、自分の会社を作りたいという夢と学校の先生をしたいという夢を持ち、その両方をかなえるために、将来的に独立して自分の会社（個人事業も含む）を立ち上げ、寮も作り、自分のように非行をしてしまったり、家庭に問題があり家を離れたい人を受け入れ、自分の経験をもとに、「後輩」たちを指導していきたい、という目標があるためである。

その目標をかなえるためには、お金も必要で、今の職場をさぼっているひまなどないので、上記のような方法を継続していき、大麻との関係を断つと考えている。

### 3 薬物関係者との関係を断つこと

少年は、共犯者を含め、大麻を含む違法薬物の関係者との断絶を誓約している。

また、少年は、共犯者との関係を断つために、少年所有の携帯電話から共犯者の連絡先を削除した。少年は、携帯電話に登録された連絡先以外に共犯者の連絡先を知らない。

### 4 今後の生活環境

少年は、現在の職場を継続していく予定である。

現在の職場であれば、一年の半分近くは出張で地元にはいないため、大麻との関係を断つには適切である。

また、出張でない日も基本的には仕事で、月に最低限の休みがある程度である。

今後は、2で考えたこととあわせて、仕事に取り組んでいけば、大麻との関係を断つことができる。

## 第3 結語

以上のように、少年は、非常に具体的な目標を持ち、そのために何をすべきかを考えている。そして、その目標との関係で、大麻との関係をどのように断っていくかを考えている。

したがって、少年が、現在の職場を続けていけば、再犯の可能性はない。

もっとも、環境として大きく変化がないので、薬物使用者の本からの具体的なエピソードだけでなく、より専門的に薬物のことについて学び、少年の目標への進み具合について監督していく必要はあり、そのことが少年の立ち直りに必要であるので、少年に対する処分は、保護観察処分が適切である。

以上